



「三菱のPHEV」が 「走る蓄電池」「走る発電機」として活躍！



「100V AC電源(1500W)」から給電

2022年12月18日、新潟県内では次々と強い寒気が流れ込み、記録的な大雪を観測。特に佐渡市では、雪による倒木などの影響で長期に亘る停電が発生しました。佐渡市は、東日本三菱自動車販売(以下、東日本三菱)及び池野自動車整備工場(以下、池野自動車)、三菱自動車と、2022年10月に締結した災害時協力協定に基づき、電動車の支援を要請。停電が長期化していた松ヶ崎連絡所と岩首診療所(ともに同市)を含め、計3台のPHEVを貸与しました。



佐渡市で大雪の中大規模停電が発生、「三菱のPHEV」が出動。



診療所で活躍したエクリプス クロスPHEV

2022年12月18日から20日にかけて、佐渡市では最大5000戸に上る大規模な停電が発生。佐渡市防災課の仲川課長は、すぐに三菱自動車との協定が頭に浮かびましたが、当初は支援要請にためらいもあったそう。「すぐに解消すると思っていたのに、なかなか復旧しない。そんな中、市長からの『三菱にPHEVの貸与要請をしてはどうか』の一声が後押しとなりました。」

三菱自動車に支援要請があったのは20日夕刻、台数は3台。すぐに市内の池野自動車に配備されていたエクリプス クロスPHEV1台を貸与します。あとの2台は新潟港からカーフェリーで運ぶ必要がありましたが、当時は乗り場に近しい新潟市内も大雪により立ち往生が相次ぎ、移動もままならない状況。当日の派遣は諦め、次の日に再チャレンジすることにしました。

翌朝、車の搬出のため店舗に向かった東日本三菱新潟東店の長谷川店長と新潟西店の近(ちか)店長は、積もった雪の量に驚きます。「爆弾低気圧の威力もさることながら、前夜、除雪車が道路の脇に雪を寄せたまま凍ったために、『氷の壁』となって出入り口を塞いでいたのです。スコップや鍬(くわ)を持ち出し、2人で汗だくになりながらその『氷の壁』を砕き、何とかフェリーに乗せました。」
(長谷川店長、近店長)

「三菱のPHEV」が、心の明かりを灯す電源に。

佐渡市に渡ったエクリプス クロスPHEVは、1台が松ヶ崎連絡所へ、もう1台は岩首診療所へ派遣されます。市の各施設には、コンセント不要のだるまストーブが配備されており、停電中も暖は取れたようですが、岩首診療所では、カルテのデータや会計システムの入ったパソコンが使えないため、診療所として機能できず困っていたそうです。診療所職員の山田さん、細矢さんは「最悪、休診も想定したのですが、PHEVのお陰で滞りなく診療ができ、本当に助かりました」と笑顔で話しました。

松ヶ崎連絡所では投光器に接続。「明かりがつかと、自然と住民の皆さんの表情も明るくなりました。『ここなら電気がもらえる』と、少し離れたエリアから携帯の充電に立ち寄る方もいましたよ」と、職員の川上さんは語ります。

当時、松ヶ崎連絡所にPHEVを届けるよう指示した、畑野行政サービスセンター長の金子さんは、電源としての価値を強く感じたそう。「避難所には小型ガソリン発電機がありましたが、音がうるさくて、特に夜間は眠れない程でした。ガスボンベで動く発電機もありましたが、2時間おきにボンベの入替が必要で、使い勝手が悪く、これも使えない。PHEVは車のコンセントに挿すだけと使い方も簡単で、音もほとんどない。本当にすごいと思いました。」



停電の中、カルテ閲覧や会計を行うためのPCに給電

三菱の4WDが、災害時にも役に立つ。

PHEVの災害時の強みは、電源としてはもちろんのこと、その走りにもあったと言えます。市役所と診療所をPHEVで往復した松井さんは「4WD性能の高さに驚いた」と話します。「往復路は高低差のあるくねくねした山道。しかも、倒木により除雪車が通れず雪は積もったままでした。そのようなところでも、PHEVは全く不安がない。普段は別の4WD車に乗っていますが、全く別物の感覚。さすがは四駆の三菱、と感動しました。」

災害時の荒れた路面、雪道でも安心して走ることのできる4WD性能と、電源としての使い勝手の良さ。災害にも強い「三菱のPHEV」の力が発揮され、佐渡市の電源としてお役立ていただけました。

今後も三菱自動車は、「DENDOコミュニティサポートプログラム」を通じ、暮らしの安心・安全を守る取り組みを行ってまいります。



松ヶ崎連絡所では投光器に電気を供給

災害にも強い「三菱のPHEV」はこちら

OUTLANDER
PHEV



ECLIPSE CROSS
PHEV



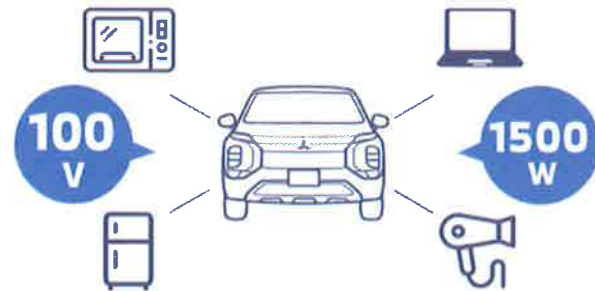
●本リーフレットは、2023年2月現在の情報に基づいて作成しています。車両の装備仕様などは予告なく変更する場合があります。

三菱のPHEVが 「くらしの安心・安全を守るクルマ」として 各地で活躍しています。

「三菱のPHEV」災害時の4つの強み

三菱のPHEVは、その性能の高さが、災害による停電時にも大いに発揮されます。

1: スイッチ1つで給電、1500Wの大容量※1



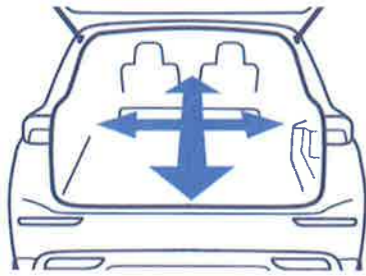
車内にコンセントを装備、スイッチ1つの簡単操作で電気製品を使用可能。

2: 「Vehicle to Home (V2H)」で、家全体に電力供給



V2H機器と接続し、PHEVの電力を建物全体に供給。ガソリン満タンで最大約12日分※2の電力を確保することができます。

3: 広いラゲッジスペース



荷室は十分な広さがあり、緊急時にさまざまな物資を運搬する車両としても活躍します※3

4: 悪路でも安心の4WD性能



カーブの多い山道や、荒れた道路を走る際もPHEVの強い足回りが安心感を与えてくれます。

特務機関NERVも、災害対策車として「三菱のPHEV」を採用。



防災アプリを運営する特務機関NERV※(ゲヒルン株式会社)と三菱自動車は、災害による長期停電や通信網途絶に備え、「防災情報配信サービスの継続」と「近隣自治体への支援」を目的とした特務機関NERV災害対策車両を共同製作しました。現在は、参考機、四号機の計二台の災害対策車が稼働し、被災各地へ出動、災害対策本部や避難所の支援活動を行っています。

詳しくはこちら <https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/phev/NERV/>

※「特務機関NERV」の名称およびロゴマークは、『エヴァンゲリオン』シリーズの著作権者である株式会社カラーと、同作の権利を管理する株式会社グラウンドワークスの許諾に基づき使用しています。

- 提供サービス
- ① 電源供給・充電サービス
 - ② 安否・避難所情報の通信サービス(避難所の避難者・運営者向け)

「DENDOコミュニティサポートプログラム」で全国の自治体と協定を締結

災害による停電発生時に改めて自治体と必要事項を確認する時間的ロスをなくし、給電などに活用できる『アウトランダーPHEV』などの電動車を速やかに被災地・避難所などへ提供できる体制づくりを、系列販売会社と共に推進しています。

このたび、目標としていた「47都道府県の自治体との災害時協力協定締結」を達成。今後も全国の自治体と支援の輪を広げていく予定です。



自治体のニーズに応じ、「三菱のPHEV」の活躍の場が拡大。

●人工呼吸器専用「外部バッテリー」への給電検証(川崎市)

川崎市より「医療機器使用者の停電対策としてPHEVを活用し、人工呼吸器の専用外部バッテリーへの充電検証を行いたい」との要望を受け、検証に参画。国立病院機構根病院の医療監修のもと、PHEVから給電、バッテリーの安定動作を確認しました。医療関係者や医療的ケア児者※からの反響が大きく、国土交通省による電動車派遣実証では医療的ケア児者との意見交換を行うなど、「医療機器に直接給電しなくとも、停電時の安心につながる」と期待の声が上がっています。

※心身の機能に障害があり、呼吸や栄養摂取、排泄などの際に、医療機器やケアを必要とする方のごこと



●災害停電時マンホールポンプ起動支援システム開発

台風や落雷などの自然災害によって電源を喪失したマンホールポンプを迅速に起動させるシステムを開発するため、日本下水道新技術機構や住原実業、三水コンサルタントとともに共同研究に参加しました。

脱炭素社会の実現に向け、平常時に「太陽光発電」等により充電した「可搬式蓄電池」や「電動車両」を、災害停電時に電源供給源として用い、「新動力制御盤」を介して停止したポンプを起動させる新しいタイプのマンホールポンプシステムとなります。



「電動 DRIVE STATION」は、いざという時の避難場所に。

「電動 DRIVE STATION」は、クルマの電動化が進むいま、三菱自動車が考える新たなコンセプトを備えた店舗です。

電動DRIVE STATIONには、太陽光発電システムとV2H機器が設置されており、太陽光発電による電動車両への充電と、電動車両から店舗への電力供給を可能としています。



詳しくはWebで。 <https://www.mitsubishi-motors.co.jp/special/dendo>

災害時に停電が発生した際には、店舗が停電することなく、充電器やフリーWi-Fiがご利用いただけるなど、緊急時の避難場所としてもご利用いただくことができます。



※1 ●消費電力が1500Wを超えると、給電停止または出力低下となる場合があります。●ACコンセントに、たご足配線はしないでください。●定格消費電力1500W以下でも使用できない機器があります。●AC電源使用時は駆動用バッテリーの残量が少なくなると、自動的にエンジンが起動し充電をおこないます。車両の停止中にエンジンが起動した場合、アイドリングストップに関する条例に抵触することがありますので、十分にご注意ください。
 ※2 ●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項をご案内の上でご使用ください。
 ※3 ●満充電の状態での一般家庭の最大約1日分、バッテリーチャージモードによるエンジンでの発電も組み合わせればガソリン満タンで、アウトランダーPHEVは最大約12日分、エクリプス クロスPHEVは最大約10日分の電力量を供給することが可能です。
 ●供給可能電力量は当社試算による(一般家庭での一日当たりの使用電力量を約10kWh/日として算出、V2H機器等の変換効率を含みません)。●住宅との接続にはV2H機器が必要です。また、V2H機器に接続している場合、エンジン起動による発電はできません。V2H機器については、V2H機器取扱メーカーまたは営業スタッフにおたずねください。



三菱のPHEVが「走る蓄電池」「走る発電機」に！



「100V AC電源(1500W)」から給電

2021年1月7日、秋田県北部では豪雪と強風による電線切断により停電が発生。秋田市からの支援要請に基づき、避難所となる川尻コミュニティセンター、旭南コミュニティセンター(ともに同市)に、秋田三菱自動車販売(以下、秋田三菱)から2台のPHEVを派遣しました。2020年2月、三菱自動車は秋田市、秋田三菱と災害時協力協定を締結しており、協定に基づく初の支援となりました。



大雪による極寒の中、PHEVからの給電で暖房と照明を稼働。



秋田市担当者は「PHEVからの電源で暖房が使えたのが最も大きかった」と話します。また、避難所の入口付近を、秋田三菱の持参した照明で照らすことで、避難所を開設していることを知らせることができ、住民の不安も解消できたそうです。

給電支援は、翌日9日午前10時頃まで実施。燃料切れ等を起こすこともなく、無事に朝まで支援できました。市でも停電への備えはしていましたが、長時間にわたる停電への対応はとて難しく、PHEVによって確実に電気を供給できたことは画期的だったそうです。

「災害時協力協定」の締結が、支援の迅速化に。

三菱自動車では、2019年8月より、電動車を活用した自治体への支援活動「DENDOコミュニティサポートプログラム」を推進しています。うち、全国自治体との災害時協力協定については、2022年度を目標に、全国の自治体との協定締結を目指し取り組みを進めています。

これまでは協定未締結の自治体への支援が主で、実際に派遣するまでの調整に時間がかかってしまうケースが多く、最も電力を必要とする停電発生初期に車を貸与できないというジレンマを抱えていました。今回の支援活動を通じ、協定締結が、PHEVの迅速な貸与を実現する1つの証となりました。

今後も三菱自動車は「DENDOコミュニティサポートプログラム」の推進によって、全国自治体への支援の輪を広げてまいります。

2021年1月7日、秋田県北部日本海側では、豪雪と強風による電線切断の影響で、約5万戸の停電が発生。秋田市内の川尻コミュニティセンターは小型発電機しかなく、事務所のデスクライトを点灯しているのみの状況でした。

大寒波による、-5℃の厳寒での停電は、命にかかわる一大事です。秋田市の職員は避難所の準備を進めながら、秋田三菱への支援をすぐに思いついたと言います。

市からの支援要請に基づき、秋田三菱はすぐさま、エクリプス クロスPHEV及びアウトランダーPHEVを、2か所のコミュニティセンターに貸与。PHEVからの給電で、川尻コミュニティセンター内の石油ファンヒーター、携帯電話充電器が使えるようになり、秋田三菱から貸し出した照明で光源も確保できました。旭南コミュニティセンターも同様に、PHEVからの給電によって、石油ファンヒーター、TVなどを稼働させました。

秋田市への支援までの流れ

1月7日	豪雪による停電発生
1月8日 9:20	秋田市より秋田三菱に対し 電動車貸与可能台数の照会。
	秋田三菱が「12:00迄に貸与可能な台数は2台、さらに6台も配備可能だが1日程度かかる。」旨を回答。
	市より秋田三菱に対し2か所への貸与を要請。
1月8日 10:20	川尻コミュニティセンターへ エクリプス クロスPHEVを貸与。
1月8日 11:20	旭南コミュニティセンターへ アウトランダーPHEV1台を貸与。



雪道も安心して走行可能

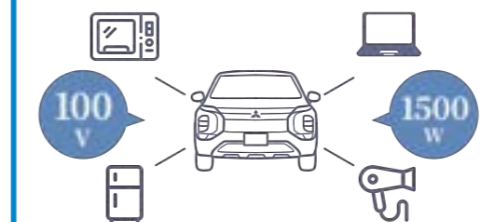


明かりと暖の確保で安堵の表情

「三菱のPHEV」災害時の4つの強み

三菱のPHEVは、その性能の高さが、災害による停電時にも大いに発揮されます。

1: スイッチ1つで給電、1500Wの大容量※1



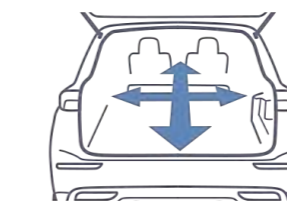
車内にコンセントを装備、スイッチ1つの簡単操作で電気製品を使用可能。

2: 「Vehicle to Home(V2H)」で、建物全体に電力供給。



V2H機器と接続し、PHEVの電力を建物全体に供給。アウトランダーPHEVなら、満充電、ガソリン満タンで最大約12日分※2の電力を確保することができます。(エクリプス クロスPHEVは約10日分)

3: 広いラゲッジスペースで、荷物の運搬や車中泊にも。



荷室は十分な広さがあり、荷物を運搬する車両としても活躍するほか、車中泊にも対応できます。

4: 悪路でも安心の4WD性能



カーブの多い山道や、荒れた道路を走る際、さらには積雪路や凍結路でも、PHEVの強い足回りが安心感を与えてくれます。

災害時にも活躍する「三菱のPHEV」はこちら

OUTLANDER PHEV



ECLIPSE CROSS PHEV



※1 ●消費電力が1500Wを超えると、給電停止または出力低下となる場合があります。
●ACコンセントに、たこ足配線はしないでください。
●定格消費電力1500W以下でも使用できない機器があります。
●AC電源使用時は駆動用バッテリーの残量が少なくなると、自動的にエンジンが始動し充電をおこないます。車両の停止中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条項に抵触することがありますので、十分にご注意ください。
●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項をご覧の上でご使用ください。

※2 ●満充電の状態でも一般家庭の最大約12日分、バッテリーチャージモードによるエンジンでの発電も組み合わせればガソリン満タンで最大約12日分の電力量を供給することが可能です。
●供給可能電力量は当社試算による(一般家庭での一日当たりの使用電力量を約10kWh/日として算出、V2H機器等の変換効率を含みません)。
●住宅との接続にはV2H機器が必要です。V2H機器については、当社販売会社スタッフまたは各V2H機器メーカーにお問い合わせください。
●V2H機器に接続している場合、エンジン始動による発電はできません。V2H機器については、V2H機器取扱メーカーまたは営業スタッフにお尋ねください。

三菱のPHEVが 「くらしの安心・安全を守るクルマ」として 各地で活躍しています。

「DENDOコミュニティサポートプログラム」とは

自ら発電し、その電気を取り出して使うことができる「三菱のPHEV」を活用した自治体への支援活動です。「PHEVの走るチカラと電気チカラ」で、皆様のくらしの安心・安全を支えます。

●自治体との災害時協力協定

災害発生時に改めて自治体と必要事項を確認する時間的ロスをなくし、給電などに活用できる『アウトランダーPHEV』などの電動車を速やかに被災地・避難所などへ提供できる体制づくりを、系列販売会社と共に推進し、自治体と災害時協力協定を締結しています。

●COVID-19ワクチン巡回接種用車両の貸与

COVID-19ワクチン接種支援のため、港区、岡崎市、倉敷市、総社市など、災害時協力協定締結によりPHEVの有用性をご理解いただいている自治体に対し『アウトランダーPHEV』を無償貸与。

PHEVの「走りながら給電できる」機能を活かし、ワクチン輸送中の保冷剤冷却や、接種会場のバックアップ電源としてご活用いただきました。

詳しくはWebで。
<https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/phev/dcsp/>



2020年10月 岡山県との締結式



自治体のニーズに応じ、「三菱のPHEV」による支援を拡大

●人工呼吸器用“外部バッテリー”への給電検証 (川崎市)

川崎市より「緊急時における医療機器使用者の停電対策としてPHEVを活用し、人工呼吸器の専用外部バッテリーへの充電検証を行いたい」との要望を受け、検証に参画。国立病院機構箱根病院の医療監修のもと、アウトランダーPHEVやエクリプス クロスPHEVから給電、バッテリーの安定作動を確認しました。「医療機器に直接給電しなくとも、停電時の安心につながる」と期待の声が上がっています。

※2020年11月に川崎市と協定を締結済

●COVID-19ワクチン接種会場の冷房器具への給電支援 (平塚市)

平塚市より「ワクチン接種会場の公民館で電力容量が不足しているため、臨時で設置したスポットクーラーが稼働できず困っている」との相談を受け、アウトランダーPHEV2台を無償貸与、医師及び看護師等医療スタッフ用のスポットクーラーの電源としてご活用いただきました。

※2021年4月に平塚市と協定を締結済



災害対策車として各地で活躍。

給電が簡単にできる点、4WDによる被災時の悪路でも難なく走れる走破性など、数々の活躍により、全国自治体での導入事例も増えています。



多摩市 災害対策車両(アウトランダーPHEV)

多摩市総務部防災安全課からのコメント

昨今頻発する災害への備えから、災害対策車として『アウトランダーPHEV』を導入しました。現在、市では、カーボンニュートラルの動きを進めておりますが、災害時に遠方まで被災地の支援に赴く際、電気自動車(EV)では、航続距離の問題が必ず付いて回ります。航続距離を気にせず、被災地でも電源として十分に活用できる『アウトランダーPHEV』は、環境と防災の両面から最適な選択ではないかと考えています。

特務機関NERVも、災害対策車として「三菱のPHEV」を採用。



- 提供サービス
- ①電源供給・充電サービス
 - ②安否・避難所情報の通信サービス
(避難所の避難者・運営者向け)

災害による長期停電や通信網途絶に備え、「防災情報配信サービスの継続」と「近隣自治体への支援」を目的とした「特務機関NERV災害対策車両」を、特務機関NERVを運営するゲヒルンの協力のもと共同製作しました。*

被災地での活動に欠かせない機動性と安全性能、環境性能、給電機能が評価され、エクリプス クロスPHEVを「特務機関NERV制式 災害対策車両 5LA-GL3W」として選定。照明機器などへの電力供給サービス、携帯機器やパソコンなどへの充電サービスの提供も可能です。

100V AC電源(1500W)を備えたラゲッジルームには、内閣府準天頂衛星システム戦略室から貸与された衛星安否確認サービス「Q-ANPI」の衛星通信端末を装備。災害時の避難所情報を、日本版GPSともいえる衛星システム「みちびき」経由で管制局に集約し、安否確認や避難所運営を支援します。

※「特務機関NERV」の名称およびロゴマークは、『エヴァンゲリオン』シリーズの著作権者である株式会社カラーと、同作の権利を管理する株式会社グラウンドワークスの許諾に基づき使用しています。

「電動 DRIVE STATION」は、いざという時の避難場所に。

「電動 DRIVE STATION」は、クルマの電動化が進むいま、三菱自動車がか考える新たなコンセプトを備えた店舗です。

電動DRIVE STATIONには、太陽光発電システムとV2H機器が設置されており、太陽光発電による電動車両への充電と、電動車両から店舗への電力供給を可能としています。



災害時に停電が発生した際には、店舗が停電することなく、充電器やフリーWi-Fiがご利用いただけるなど、緊急時の避難場所としてもご利用いただくことができます。



詳しくはWebで。 <https://www.mitsubishi-motors.co.jp/special/dendo>

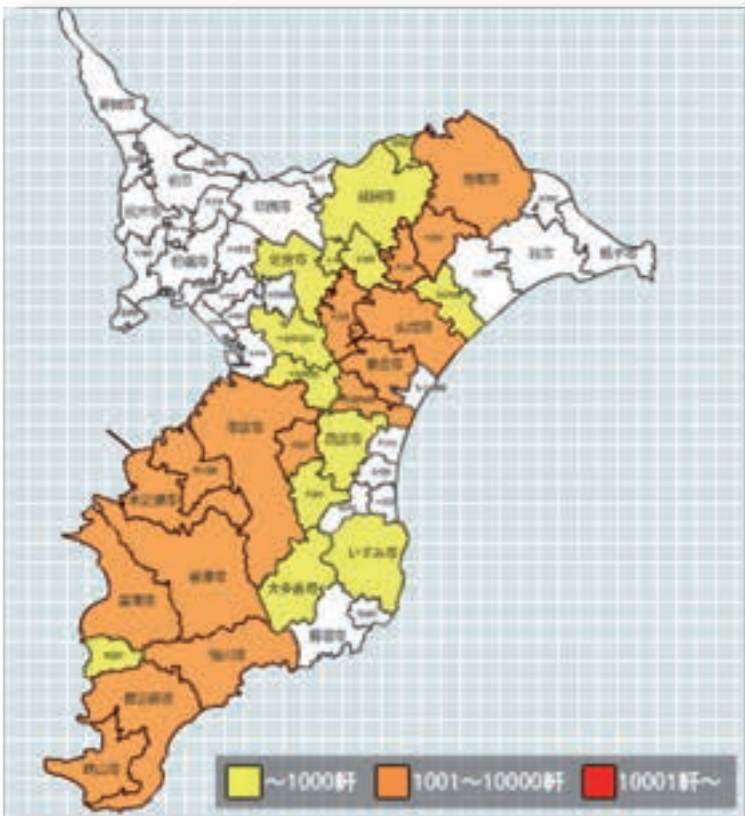
●本リーフレットは、2021年11月現在の情報に基づいて作成しています。車両の装備仕様などは予告なく変更する場合があります。



千葉の停電においてもお役に立つことが出来ました。 災害時の アウトランダーPHEVのご活用



2019年9月9日に千葉県を襲った「台風15号」
その直後、千葉県のほぼ全域が一斉に停電に見舞われる
非常事態に陥りました。
電気という大きなライフラインが閉ざされた数週間、
三菱自動車工業は東京電力を通じ、各自治体へ
移動電源車両としてアウトランダーPHEVを派遣しました。



TEPCO 東京電力ホールディングス 株式会社
@OfficialTEPCO

■お知らせ■
電気自動車に搭載した大容量バッテリーから給電することで、現地での復旧活動等に必要
な電気をご提供するため、電気自動車や給電
装置を各自治体様へ派遣しています。
この派遣にあたっては、自動車メーカー様や
機器メーカー様による多大なご協力を頂いて
おります。



2:40 - 2019年9月16日

災害派遣された
アウトランダーPHEV

Mitsubishi Motors/三菱自動車
9月14日 21:24

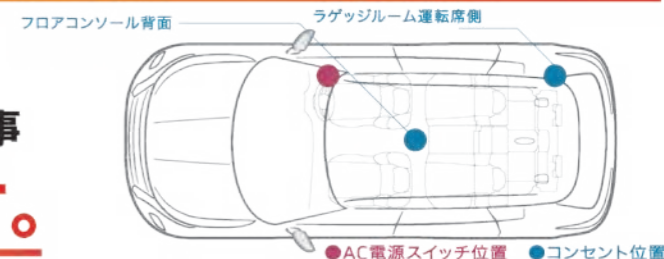
このたび、台風15号の影響により被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。
三菱自動車は、自治体の要請を受け、9月12日より、当社のプラグインハイブリッドEV「アウトランダーPHEV」6台を千葉県内の施設にお届けし、給電のサポートを行っております。
SNSなどでも、当社のPHEVへ多くの御期待を頂いておりますが、来週以降は、さらに6台を追加でお届けするなどして、支援を拡大してまいります。

制作：富山三菱自動車販売株式会社

アウトランダーPHEVが 災害時に活躍する理由



合計1500Wまで
使える100Vコンセントを二つ装備している事
大半の電化製品が使えます。



電化製品の一例



料理に必要なIHクッキングヒーターであったり、電子レンジであったり、電気ケトルであったり、冷蔵庫も使えて食材の保存もバッチリ！
このアウトランダーPHEVの給電機能で、安心して使用することが出来ます。
コンセントを家の中に引き込めば、トイレや明かりも確保出来可能なのです。
さらにはテレビやパソコン、スマートフォンが使えて情報収集に役立ちます。

場所を選ばず、ガソリンで発電

バッテリーが切れてもガソリンを
給油可能な限り給電可能です。



最低地上高が高い上にS-AWCの優れた走破性で災害時の悪路においても安心して安全に移動していただけます。

V2H機能が搭載されたお宅で

アウトランダーPHEVの電力を使って家全体の電力が最大10日間まかなえます。

バッテリー、燃料タンクが満タン時から
1日あたり10kWhとして計算した場合(V2H変換効率を含みません。)

PHEVを非常電源として
使える目安。



*V2H機器に接続している場合、エンジンによる発電が出来ません。エンジンで発電の際はV2Hとの接続を終了してください。エクリプスクロスPHEVは最大約10日間停電時には車両、V2H機器の自己消費電力により、通常時のV2H使用電力量と異なります。



「100V AC電源(1500W)」から給電

電気を蓄え、供給する。「動く電源」ともいえるアウトランダーPHEVは、車内2箇所のコンセントから合計で最大1500Wまでの電気を簡単に使えるのが大きな魅力。もしもの時にも、ライフラインの一つとして幅広く活用することができます。

1 停電中でも、情報収集をサポート。

家族の安否や災害の状況、緊急時こそ最新情報は欠かせません。災害時に起こりうる停電でも、アウトランダーPHEVから給電。情報を絶やさずキャッチできる環境に。

緊急連絡に備えて、スマホを充電！



情報の入口となるスマホやパソコンを、同時に複数台充電できます。

- ・スマートフォン 20W*
- ・ノートパソコン 120W*

速報やニュースをテレビで！



テレビを見るための電力は十分供給可能。災害状況確認のほか、DVDで気分転換もできます。

- ・40型液晶テレビ 130W*

2 非常時の食卓もバックアップ。

調理家電を使っていつでも温かいものが食べられるのも、アウトランダーPHEVから給電できる強み。災害で食料の調達がむずかしい時でも、家にある手近な食材を生かして料理をつくることも。

温かいものを、手早く！



レトルト食品*などを電子レンジで温めたり、電気ケトルで温かい飲みものも飲めます。

- ・電子レンジ対応のレトルト食品。

- ・電子レンジ 1400W*
- ・電気炊飯器 500W*
- ・電気ケトル 700W*

煮たり焼いたり、アツアツを！



ホットプレートやIHヒーターが使える、非常時でも、できたてが食べられます。

- ・IHヒーター 1400W*

3 災害時の暑さ・寒さ対策にも。

消費電力の大きい冷暖房器具も十分にまかなえる、アウトランダーPHEVのバッテリー容量。真夏や真冬の停電でも、天候や体調に合わせて温度の調整ができます。

停電中でも、暑さをムリせずに！



バッテリーの電力で、エンジンをかけることなく車載のクーラーが使えます。

体を温める工夫を、身近な家電で！



電気ストーブや電気毛布が使えます。火を使わないので、安心です。

- ・電気ストーブ 1000W*

●2つのACコンセントを同時に使用するときは、消費電力の合計が1500Wを超えないようにしてください。●消費電力が1500Wを超えると、給電停止または出力低下となる場合があります。●ACコンセントに、たこ足配線はしないでください。●定格消費電力1500W以下でも使用できない機器があります。●AC電源使用時は駆動用バッテリーの残量が少なくなると、自動的にエンジンが起動し充電をおこないます。車両の停止中にエンジンが起動した場合、アイドリングストップに関する条項に抵触することがありますので、十分にご注意ください。 ※記載の消費電力(W)は一般的な目安です。ご使用の電気製品の種類や大きさなどにより消費電力は大きく異なる場合があります。

アウトランダーPHEVの電気を、お家の電気に。V2H機器

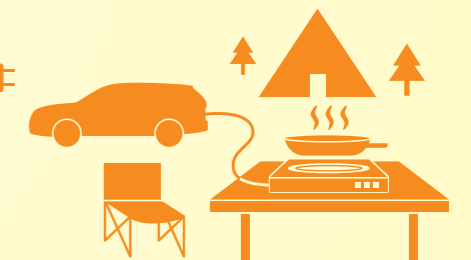
「V2H」とはクルマに蓄えた電気を家で使う仕組みのこと。万一の停電や災害などでライフラインが寸断されても、アウトランダーPHEVのバッテリーからV2H機器を経由して家庭へ電力を供給。情報機器、電化製品などが使用可能です。満充電の状態でも一般家庭の最大約1日分*、エンジンでの発電*も組み合わせれば、ガソリン満タンで最大約10日分*の電力が供給可能です。

*：供給可能電力量は当社試算による（一般家庭での一日当たりの使用電力量を約10kWh/日として算出、V2H機器等の変換効率は含みません）。住宅との接続にはV2H機器が必要です。V2H機器に接続している場合、エンジン始動による発電はできません。エンジンでの発電を行う場合は、V2H機器との接続を終了してください。V2H機器については、営業スタッフまたは各V2H機器取扱メーカーにおたずねください。



アウトドアの体験が、非常時の味方に！

アウトランダーPHEVの「100V AC電源(1500W)」は、アウトドアでも大活躍。クルマからの給電で、IHヒーターやジュースなど野外で家電を使いこなす体験が、災害時の行動にも生きてきます。



移動手段として

環境の変化にも、SUV & 4WDの安心感。

前後の高出力モーターによる力強い発進と加速、SUVならではの高い地上高。荒れた路面でも高い走破性を発揮する。それが、三菱自動車誇る4WD SUV。多彩なシートアレンジで、大きな荷物を積むこともできます。



空間として

ゆとりの車内で、避難生活にひと息。

避難生活でとくに気になるのが、プライバシー。広々空間のアウトランダーPHEVなら、車内でゆったり過ごせて、ペットがいる人も安心。シートを倒せば、フラットスペースで足を伸ばしてくつろぐこともできます。



オーナーさまに聞きました!

災害時のアウトランダーPHEV活用

あの北海道大停電では、どんな使い方を?

2018年9月6日未明、北海道を襲った「北海道胆振東部地震」。その直後、北海道のほぼ全域が一斉に停電に見舞われるという非常事態に。電気という大きなライフラインが閉ざされた数日間、アウトランダーPHEVはどう役に立ったのか。北海道のオーナーさまの貴重なお話から、アウトランダーPHEVがもしもの時のライフラインの備えになることが見えてきました。

EPISODE 1

もう一つのライフラインがある。 その安心感に救われました。

北海道江別市 加藤さま



札幌近郊にお住まいの加藤さまが、アウトランダーPHEVを購入されたのは2018年6月。そのわずか3ヵ月後、あの大地震と大停電が。「クルマからの電気を、まさか災害で初めて使うことになるとは!」ご主人、奥さま、小学生の娘さんの3日間にわたる奮闘ぶりを、再現をまじえてお話しいただきました。

1日目 トイレが流れない!?

「停電でまず困ったのが、トイレ」。断水はなかったものの、電気がないと水が流れない状態。「そうだ、アウトランダーPHEVの電気がある!」手探りながら、車内のコンセントに延長コードを差し込み、クルマの窓からトイレの窓へ。ジャーと水が流れると、思わず「やったー!」安堵と同時にアウトランダーPHEVの電気が生活に使えると分かった瞬間でした。このあと炊飯器で炊きたてのごはんも。娘さんにとっても忘れられない味になったようです。



・トイレ 1300W
・電気炊飯器 1200W

2日目 停電時でも、洗濯物が出る!

9月はまだ汗をかく季節、洗濯物をためるのも限界が。アウトランダーPHEVのコンセントにつないでみると、洗濯機のような大型家電も難なくクリア。ただし「1回1家電」「終わったら給電オフ」が奥さまルール。安全や節電の心掛けはお手本になります。



・洗濯機 380W

3日目 夜9時、電気が復旧!

気になるのが、ここまでどのくらいの充電とガソリンで乗り切ったのか。停電直後、ガソリンとバッテリーの容量はそれぞれ8割ほど。料理も掃除も洗濯もこなし、復旧時は、充電分はほぼ使い切ったものの、ガソリンはまだ5~6割も。「便利だけじゃなくて、一番大きかったのは、なんとかやっていけるという気持ちになれたこと」。アウトランダーPHEVというもう一つのライフラインの心強さを、大停電で実感されたようです。



車内コンセントは後部座席の前のほかに、ラゲッジルームにも。



車内のコンセントにつないだ延長コードをクルマの窓から家中へ。



消費電力が大きいIHヒーター(1400W)も使うことができました。

◎写真はすべて「北海道胆振東部地震」による停電などの非常時当時の再現です。記載の消費電力(W)は、加藤さまが実際にお使いの電気製品の数値です。
●2つのACコンセントを同時に使用するときは、消費電力の合計が1500Wを超えないようにしてください。●消費電力が1500Wを超えると、給電停止または出力低下となる場合があります。●ACコンセントに、たこ足配線はしないでください。●定格消費電力1500W以下でも使用できない機器があります。●AC電源使用時は駆動用バッテリーの残量が少なくなると、自動的にエンジンが始動し充電をおこないます。車両の停止中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例に抵触することがありますので、十分にご注意ください。

EPISODE 2

新聞社にも取材しました!

災害時こそ最新情報を。 地元を支える北海道新聞社でも活躍。



地域に根ざした報道で、全道で広く親しまれている北海道新聞社。同社では、2012年初冬、登別、室蘭など西胆振地域が数日間停電に見舞われた暴風雪を機に、電源車も兼ねた社有車としてアウトランダーPHEVを導入。現在、本社から支社、支局まであわせて9台が配備されています。発電機も大型電源車も完備されている新聞社ですが、不測の事態に備える責任感もクルマにまで一貫。このたびの「北海道胆振東部地震」や大停電でも、その確かな備えが力を発揮しました。



現場で

地震の被災地の一つ厚真町にて、9月8日から24日まで、17日間の取材で使用。本社や現地記者とのやり取りが頻繁にあり、携帯電話やパソコン、Wi-Fiルーターなど、常時4~6台の機器を車内のコンセントで充電しながら取材活動を続けられたそうです。

支局で

稚内支局では、9月6日の停電当日の朝から電源車として使用。携帯電話、パソコン、Wi-Fiルーターをはじめ、プリンター、ファックス、照明などにつなげ、業務を継続。給電は翌日の復旧まで約1日半。ガソリンの使用量は満タンから1/4程度で済んだそうです。

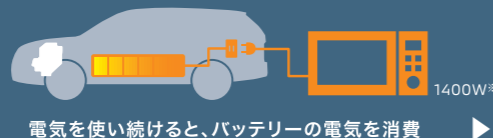
ココも注目!

バッテリーの電気もエンジンでの発電も、Wスタンバイ!

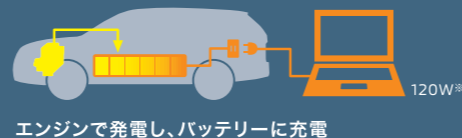
アウトランダーPHEVは、バッテリーの電気を使えるだけでなく、バッテリーが減るとエンジンが自動で発電。停電などで外部充電できない場合も、ガソリンを使ってエンジンで発電し、供給することができます。



バッテリーは満充電状態



電気を使い続けると、バッテリーの電気を消費

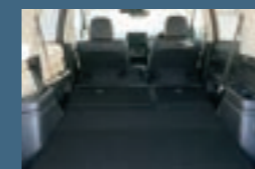


エンジンで発電し、バッテリーに充電

※記載の消費電力(W)は一般的な目安です。ご使用の電気製品の種類や大きさなどにより消費電力は大きく異なる場合があります。

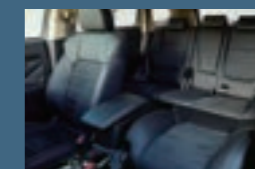
ココも注目!

シートは、避難状況にあわせて自由に!



積む

後部座席を前に倒せば、最大約1740mm×約975mm。避難所で使う布団や寝袋、さらにテントなどの大きな荷物も積み込めます。



休む

運転席と助手席は、後ろに倒すとほぼフラットに。足を伸ばして、リラックスすることができます。

◎撮影車両には販売会社独自のアクセサリが装着されています。

OUTLANDER PHEV

アウトランダーPHEVを「走る蓄電池」「走る発電機」に！



「100V AC電源(1500W)」から給電

2019年9月8日から9日にかけて関東地方に上陸し大きな被害をもたらした台風15号の影響で、千葉県を中心に大規模な停電が発生。三菱自動車は現地自治体の要請を受け、『アウトランダーPHEV』計12台を高齢者施設等に派遣し、冷蔵庫や洗濯機、電子レンジなど給電による支援を行いました。

冷蔵庫や電子レンジなどに給電。200人分の洗濯も！



君津市の高齢者施設で200人分の衣類を洗濯

三菱自動車では、台風15号が関東を通過後、千葉県内の停電が長期化していることを報道で知り、すぐさま県下自治体へのコンタクトを開始。販売会社協力のもと、ひとまずアウトランダーPHEV6台を確保(最終的には12台を派遣)し、支援要請を受けた自治体に向かい、2019年9月12日から泊まり込みの支援をスタートしました。

要請のあった^{きよなんまち}鋸南町の高齢者施設では、停電により夜も真っ暗で不安な中過ごされている入居者が多くいました。アウトランダーPHEVの電力で、照明や冷蔵庫、電子レンジなどのほか、電動ベッドの昇降などにも使用。電気がつき、冷蔵庫が動き出した時には職員の皆様から拍手が起こるほど喜んでいただきました。

さらに、君津市の施設では、入居者約200人分の衣類の洗濯のため、アウトランダーPHEV4台で洗濯機4台と乾燥機2台を回すことに。台風一過の猛暑の中、空調も使えず、お風呂にも入れず、頻りに着替えていたため、かなりの量の洗濯物がたまっていたことから、たいへん感謝されました。

実際に使用した家電などの例



冷蔵庫
100~300W



電子レンジ
1000~1400W



洗濯機
200~500W



照明(LED)
200~500W



携帯電話の充電
10~30W



電動ベッドの昇降
50~200W



PHEVのコンセントからリールを使い家電と接続

電池がなくなっても、エンジンで発電しながら給電が可能。

車に蓄えられている電気がなくなった場合でも、アウトランダーPHEVなら、ガソリンさえあればエンジンで発電をしながら給電することができます。

支援に参加した社員は「実際に電源としてつないでみると、本当にガソリンがなかなか減らない。それに『アウトランダーPHEV』なら、ガソリンさえ補充すれば、発電しながらずっと電源として使える。災害時に最強の車だと実感した」と話します。

電気は災害時には特に重要なライフライン。長引く停電時にも、電気の移動、蓄電、加えて発電もできる『アウトランダーPHEV』の存在は、いざという時の心強い味方となるはずです。



^{きよなんまち}鋸南町の施設では冷蔵庫や照明などを使用



支援に向かったアウトランダーPHEV

操作も簡単、たったの2ステップ。

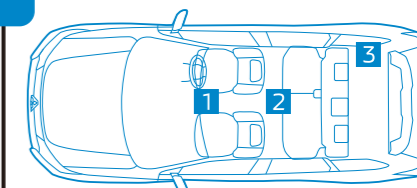
車内のコンセントに挿すだけで家電を使用でき、電源供給装置が不要な点も、被災時にはたいへん重宝されています。コンセントはフロアコンソールボックス背面とラゲッジルームの合計2カ所に設置しています。

操作方法

- 1 スイッチをON
- 2 3 アース付コンセントに挿す



外部給電装置
不要!



※番号はスイッチとコンセントの位置

V2H機器を組み合わせば、さらに快適な生活に。

「V2H」とは「Vehicle to Home」の略で、クルマに蓄えた電気を家で使うしくみのこと。停電や災害等でライフラインが寸断されても、アウトランダーPHEVのバッテリーからV2H機器を経由し、家全体へ電力を供給。通常と全く変わらない生活を送ることができます。

一般家庭電力量

最大約 **10日分** *1
(エンジンでの発電を組み合わせた場合)



*1: 供給可能電力量は当社試算による(一般家庭での一日当たりの使用電力量を約10kWh/日として算出。V2H機器等の変換効率を含みません)。住宅との接続にはV2H機器が必要です。V2H機器に接続している場合、エンジン始動による発電はできません。エンジンでの発電を行う場合は、V2H機器との接続を終了してください。V2H機器については、営業スタッフまたは各V2H機器取扱メーカーにおたずねください。

- 2つのACコンセントを同時に使用するときは、消費電力の合計が1500Wを超えないようにしてください。
- 消費電力が1500Wを超えると、給電停止または出力低下となる場合があります。
- ACコンセントに、たこ足配線はしないでください。
- 定格消費電力1500W以下でも使用できない機器があります。
- AC電源使用時は駆動用バッテリーの残量が少なくなると、自動的にエンジンが始動し充電をおこないます。車両の停止中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条項に抵触することがありますので、十分にご注意ください。
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項をご覧の上でご使用ください。

「くらしの安心・安全を守る車」として、 アウトランダーPHEVが各地で活躍。

全国自治体と

災害発生の際、全国でアウトランダーPHEVが活躍。

東日本大震災※以来、三菱自動車は大規模災害発生時にアウトランダーPHEVをご提供し、各地で輸送手段や電源としてお役立ていただきました。

※東日本大震災では電気自動車「i-MiEV」を貸与

アウトランダーPHEVによる支援をおこなった事例

- ・熊本地震（2016年4月）
- ・九州北部豪雨災害（2017年7月）
- ・西日本豪雨災害（2018年7月）
- ・北海道胆振東部地震（2018年9月）
- ・令和元年房総半島台風（2019年9月）



北海道庁からの感謝状

電源車として被災地でお役立ていただく

「DENDOコミュニティサポートプログラム」を推進中。



岡山県締結式

アウトランダーPHEVの給電機能を活かし、被災地へ電動車の給電による支援活動をおこなう「DENDOコミュニティサポートプログラム」を、2019年8月より開始しました。

自治体、販売会社、三菱自動車の三者による「災害時協力協定」をあらかじめ締結し、事前に連絡先を取り交わしておくことで、最も電力が必要である災害発生初期の停電時に、迅速に電動車をご提供します。

現在、多くの自治体からの要望を受け、メーカーと販売会社が一体となり、各自治体との協定締結を進めています。

2020年3月末時点：約40自治体と締結済

自治体でのアウトランダーPHEVの導入事例も増加中。

給電が簡単にできる点、4WDで被災時の悪路でも難なく走れる走破性など、災害時での数々の活躍により、全国自治体での導入事例も増えています。



静岡県（オリジナルラッピング）



青森県

災害対策車として

災害対策車「特務機関NERV」仕様を共同製作。

防災・気象情報の配信を行うゲヒルン社、衛星通信サービスの提供を行うスカパーJSAT社の協力のもと、防災情報配信サービスの継続と近隣自治体への災害時支援を目的とした災害対策車「特務機関NERV 制式 電源供給・衛星通信車両 5LA-GG3W(改)」を共同製作しました。

アウトランダーPHEVに搭載されている大容量バッテリーを活用し、災害により長期停電や通信網の途絶が発生した場合でも、搭載した衛星通信設備によって、電力と通信を独自に確保することが可能です。

ゲヒルン社が運営する「特務機関NERV防災」アプリや、内閣府が提供する衛星安否確認サービス端末「Q-ANPI」を通じ、地震や津波などの防災気象情報、停電情報や避難所情報といった防災関連情報を配信できるほか、車両そのものがWi-Fiスポットとしての役割も果たします。



提供サービス

- ① 電源供給・充電サービス
- ② Wi-Fiによるインターネットサービス
- ③ 安否・避難所情報の通信サービス（避難所の避難者・運営者向け）

詳しくはスペシャルサイトへ。
https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/outlander_phev/special/NERV/

防災の拠点として

「電動 DRIVE STATION」は、いざという時の避難場所に。

「電動 DRIVE STATION」は、クルマの電動化が進むいま、三菱自動車が考える、電動車両(EV・PHEV)の意義の1つ「外部給電機能がもたらす災害時の価値」を具現化した店舗です。

電動DRIVE STATIONには、太陽光発電システムとV2H機器が設置されており、太陽光発電による電動車両への充電と、電動車両の駆動用バッテリーに蓄えた電気を店舗に供給することが可能です。災害時に停電が発生した際には、電動車両の電力を使用し、携帯電話やPCの充電、フリーWi-Fiがお使いいただけるなど、緊急時の避難場所としてもご活用いただけます。



詳しくはWebで。
www.mitsubishi-motors.co.jp/special.dendo



ダイニングルームを模した「ライフスタイルコーナー」では、電動車両の電力を使用した生活をご体感いただけます。災害時等を想定し「V2H機器による住宅への給電」と「車両から電化製品への直接給電（V2H機器を使わない）」の2つを、デモンストレーションにてご紹介します。



本リーフレットは、2020年3月現在の情報に基づいて作成しています。車両の仕様および装備などは予告なく変更する場合があります。